



267

小学校高学年向け

年組

2025年5月13日付・下野新聞3面

記事は加工しています

移ろう学び舎

国民学校と教育

⑤

玉音放送が終戦を知らせた1945年8月、京城（現韓国ソウル）。

「北から攻められる。早くしろ」。小学6年だった今井聡彦さん（91）は父に言われ、すぐに荷造りを始めた。写真や思い出の品を持ち帰ってきたが「教科書だけ持っていけ」と急かす父に従った。

東京・中目黒生まれ。太平洋戦争開戦約3カ月前の41年9月、父が、朝鮮総督府へ転勤となり移り住んだ。陸軍大將が総督を務める組織は30年余り、朝鮮を

家族とともに京城を去る道すがら、解放を喜ぶ地元の人々の「万歳 万歳」との声を耳にした。「物騒」と怖さを感じた。

が住む宇都宮市へ移った。

日本は、連合軍総司令部（GHQ）の占領下に置かれた。

終戦から2カ月後の10月、GHQは教育改革に関する指令を发出し、民主化を急速に進める。教材から軍国主義的、極端な国家主義的観念を促進する表記の除去を命じた。

友から「戦争中は相当厳しかった」と聞き、変節を意識した。教科書の表記は戦時下の「マストに仰ぐ 天皇旗、ああ、天皇旗」「ときどき、あたりをふるわすような、大砲の音がします」

翻弄された記憶たどれず



1942年文部省発行の小学4年生の国語教科書。挿絵や文章のほとんどが墨で塗られていた

放課後、友だちと八幡山公園で遊んでいると、進駐していた米兵がチヨコレットやキャンディーをくれた。数カ月間で「敵」と教え込まれた相手だった。が、楽しみだった。「軍人になる」という夢は、いつしかうせた。

子どもながらに翻弄され、どんな影響を受けたのか。今、「あの頃、自分はこう思っていたのかな」と口にする。長い年月が過ぎ、うまく思い出せずにいる。

急速な民主化

平和のかたち

とちぎ戦後80年

下野新聞 デジタルにも写真員

連載へのご意見、ご感想や関連する情報をお寄せください。 下野新聞社編集局「とちぎ戦後80年」取材班 〒320-8686 宇都宮市昭和1-8-11 ファクス 028-625-1750 メール sengo80@shimotsuke.co.jp

設問

【1】□に当てはまるこの記事の「見出し」は何だと思えますか。記事を読んで、適切な「見出し」を一つ選び、

【2】次の表を見て答えましょう。

	戦時中	戦後
生活の様子	・小学校では教育勅語の（①）が日課。 ・朝礼は少し（②）だけでひどくしかられた。 ・戦争に（③）するための体制が敷かれた。	・日本は（④）の占領下に置かれた。 ・朝礼での（⑤）は強いられなくなった。 ⑦・教科書の天皇礼賛、戦意高揚を促す内容を先生から「⑥」と指示される。

記号で答えましょう。

- ア 今も変わらない教科書
イ 墨で塗りつぶした教科書
ウ アメリカと朝鮮との関係、良好に

（1）①～⑥に入る言葉を記事の中から抜き出しましょう。（④はアルファベット3文字で書き抜きましょう）

（2）表の線○⑦を指示された子どもたちは、どんな気持ちになったと思いますか。次の条件を基に、気持ちを想像して書きましょう。

- 条件1 戦時中と戦後のちがいに触れること。
条件2 当時の子供になりきって書くこと。
条件3 50字以上、100字以内で書くこと。